

## 平成21年度 岡山大学公開講座募集要項

1. 名 称 文学部公開講座  
国家・社会と文学(者)
2. 講座の概要 9.11以降世界は変わったといわれます。また、それ以前から経済を中心に進んできたグローバリゼーションのために、国民国家、民族主義、国境などは無意味になりつつあります。環境問題も深刻になり、金融危機などで世界が混乱のさなかにある今、国家や社会はどうありうる/あるべきなのでしょう。そして文学(者)はどのようにそれに関わることができるのでしょうか。歴史から何かを学べるかもしれません。本講座ではヨーロッパ地域を包括的に扱ったり、歴史あるいは文学に重点を置いたり、個別の国の特定の時代を考察したりします。さまざまなアプローチを通して、未来の日本という国のかたちを考える参考になればと思います。
3. 期 日 平成21年 6月21日(日)～ 7月26日(日) 13時30分～16時00分
4. 会 場 岡山大学文化科学系総合研究棟 共同研究室(2階) (裏面参照)
5. 受講定員 100名 (受講資格は特にありませんが、先着順に受付を行い定員になり次第締め切ります)
6. 受講料 無料
7. 修了証書 講義6回のうち4回以上受講された方には、修了証書を授与します。
8. 受講申込
  - ① 受付期間 平成21年 5月20日(水)～ 6月17日(水)  
※郵送または持参によりお申込ください。(電話による受付は行っていません。)  
なお、持参される場合は、土・日曜日・祝日を除く平日の9時～17時の間にお越しください。
  - ② 申込先 岡山大学社会文化科学研究科等庶務係 (裏面参照)  
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 (Tel. 086-251-7345)
  - ③ 提出書類等 ア. 受講申込書  
イ. 返信用封筒(80円切手を貼り、住所・氏名を明記したもの。なお、持参される場合は不要です。)
9. 開講式 6月21日(日)13時20分から開講式を行いますので、初回は少し早めに会場にお集まり願います。
10. 閉講式 7月26日(日)16時00分から閉講式を行います。
11. 講義日程・講師等 (講師及び講義題目等は都合により変更することもあります)

No.	月 日	講 義 題 目	講 師
1	6月21日	題目：今、アメリカが恨めしいー今だけ？ 概要：平成20年10月の世界金融危機を引き起こしたアメリカの7つの大罪を糾弾する人がいます。サブプライムローンを世界中にばら撒いたこと、CO2削減について世界と歩調を合わせないこと、市場主義、エネルギーや食糧問題に大きく関わっていることなどです。世界中から恨めしく思われています。しかし、自由・平等・自己責任を標榜して出陣した多民族国家アメリカですが、当時から黒人や女性は差別されていました。建国当初から問題があったのです。このような国家に対して、文学(者)はどのように抵抗したのでしょうか。国家のありようを考えるにあたって、最も問題の多い国のひとつと考えられるアメリカから始めたいと思います。	教授 中谷 ひとみ
2	6月28日	題目：『新古今集』に見る国家と文学 概要：鎌倉時代初頭に成立した『新古今和歌集』は、後鳥羽上皇の命を受けて藤原定家等5人の撰者によって撰進された第八番目の勅撰和歌集であるが、その内実には、当時の貴族層の人々が抱っていた国家観や歴史観が様々な形で投影されている。今回の講座では、『新古今集』の撰歌と配列を通して窺われる後鳥羽院の為政者意識の問題を中心に、周辺の話題も交えつつ、中世前期の歌人たちの脳裡に思い描かれていた「日本国」の在り方について些かの考えを巡らせてみたい。	教授 田 仲 洋 己
3	7月 5日	題目：唐代の社会と詩人 概要：よく知られているように、旧中国の文人(知識人)は、文学者であると同時に、官僚であり政治家(あるいはその予備軍)であったため、彼らの残した文学作品には、政治や社会と密接に関わるものが多い。詩の黄金時代と呼ばれる唐代の詩においても、同様の傾向が見られる。当時の社会状況をうかがわせる唐詩の名作を読みながら、社会と文学の関わりについて考えてみたい。	准教授 橘 英 範
4	7月12日	題目：文学史・中国文学史・中国の文学史 概要：多くの人々にとって、受験勉強の際にしか縁のない「文学史」。また、作者名、作品名が並ぶばかりで退屈な歴史書である「文学史」。本講では、「中国文学史」の誕生を中心にそれを眺め直すことによって、皆さんの「文学史」に対するイメージを変えてみたいと思います。	准教授 遊 佐 徹
5	7月19日	題目：ゲーテとアメリカ、ゲーテとヨーロッパ 概要：ゲーテの青年時代に、アメリカでは独立戦争が起きた。ゲーテ時代の知識人達は、アメリカにヨーロッパでは実現できなかった理想の国家が誕生するのではないかとその成りゆきを注目した。その背景には旧来の伝統に疲弊したヨーロッパ文明の現状があった。ゲーテは自分がアメリカに渡航する可能性をほのめかしたこともあったが、結局、ヨーロッパにとどまり続けた。ゲーテのアメリカ観はどのような変遷をたどったのだろうか。またゲーテはヨーロッパの将来像をどのように思い描いたのだろうか。ゲーテが遺した文学作品を手がかりとして考察してみたい。	准教授 大 杉 洋
6	7月26日	題目：大江健三郎に見る文学者の社会参加 概要：学生時代にフランス文学を専攻し、恩師・渡辺一夫から宗教戦争に明け暮れたフランス・ルネサンス期の文学者たちの生き方を学んだ大江は、卒論の対象にサルトルを選び、この実存哲学者が提唱した「アンガージュマン」(社会参加)を、反核・護憲・平和運動という形で実践してゆく。そのような彼の足跡をたどりながら、現代日本における文学者と国家・社会との関わりについて考えてみたい。	准教授 萩 原 直 幸

----- 切 ----- 取 ----- 線 -----

(文学部)

受講申込書	氏 名	年 令	性別	職 業	現 住 所	※受付番号
	(フリガナ)			男・女		〒 電 話 : E-mail :

受講希望日に○をつけてください。

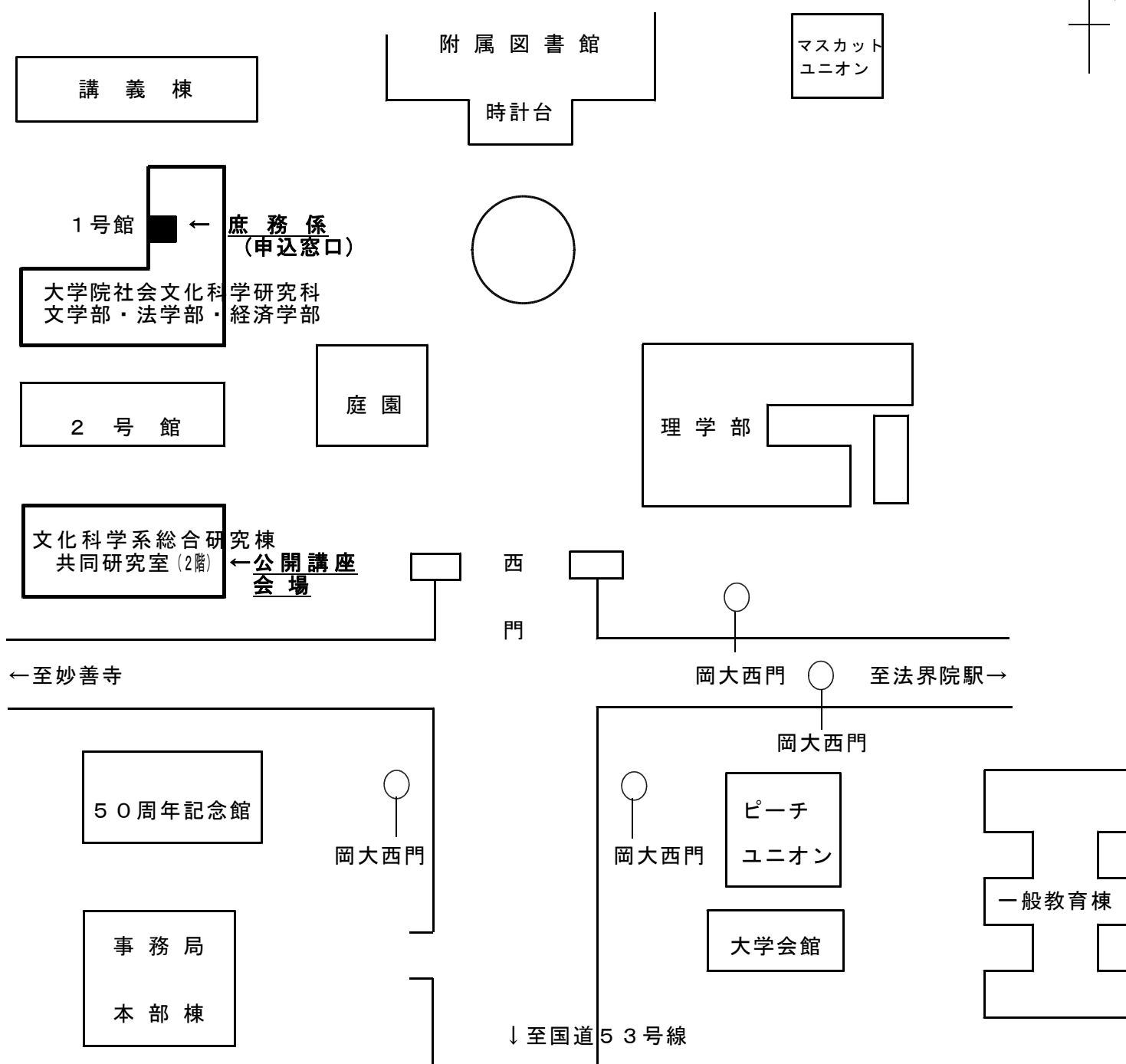
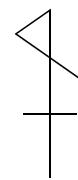
1. 6月21日	中 谷	3. 7月 5日	橘	5. 7月19日	大 杉
2. 6月28日	田 仲	4. 7月12日	遊 佐	6. 7月26日	萩 原

※印欄は記入しないでください。

計 回 受 講

ご記入いただきました個人情報につきましては、本講座の受講管理の他、本学より公開講座にかかわる開催情報などをご案内・ご連絡の際に使用させていただきます。ご案内を希望されない場合は、お申し出ください。(案内等を希望しない口)

# 岡山大学案内図



● 交通案内 (市内バス)

- ・ JR岡山駅前から岡電バス「岡山大学・妙善寺」行に乗車、「岡大西門」で下車
- ・ JR岡山駅前から岡電バス「津高営業所」行に乗車、「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分  
(\*上記2路線は市内を廻るため時間がかかります。)
- ・ JR岡山駅西口から岡電バス「岡山理科大学」行に乗車、「岡大西門」で下車